



日本家族看護学会 NEWS Letter

2012年度 日本家族看護学会第19回学術集会開催 9月8日・9日東京・学術総合センター

第19回学術集会を終えて 日本家族看護学会第19回学術集会 大会長 上別府圭子 (東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野)

日本家族看護学会第19回大会を、2012年9月8日、9日の両日、神田一ツ橋において開催させていただきました。当日は、学術集会に830名、懇親会に100名を超えるご参加をいただき、アカデミックかつ楽しい集いとなりましたことを、講師の先生方、会員諸氏、すべてのご参加の皆様感謝申し上げる次第です。

東日本大震災と原発事故の直後に、大会テーマを「家族とレジリエンス」と定め、私の講演と特別講演、シンポジウム、テーマセッションの1本ずつを、大会テーマ関連のものとしていただきました。また「家族研究の方法論」に関するシンポジウムのほか、初の試みである事例検討や、東京大学コンソーシアムの協賛による研究者公開シンポジウムなど、魅力的なプログラムをとりそえました。一般演題も含め、どの会場も活気にあふれ、有意義な意見交換ができたと思っています。

「サイエンティフィックな学会ですね」「たくさんの刺激を受けました」という評価や、「スタッフの方がてきばきと動いていて気持ちよかったです」「皆さん笑顔で楽しそうに働いていましたね」といったお言葉もいただき心が温まりました。会長の私自身、自分の講演が



大会長 上別府先生の基調講演

終わると緊張がほどけて、あとはたっぷり楽しませていただきました。

懇親会のはじめに優秀演題が発表され、新田紀枝さんグループの演題が「大会テーマ（家族とレジリエンス）関連演題」として、西垣佳織さんグループの演題が「家族の方法論一ひとまとまりの家族をとらえる工夫」として、賞に輝きました。おめでとうございます。またエキスパートの先生方のクイズで、会場がわき、楽しいひとときを過ごしました。

会の準備・運営に携わって下さった皆様、この場を借りて御礼申し上げますとともに、家族看護学のさらなる発展を祈念いたします。

第19回学術集会の様子



事例検討会



公開シンポジウム

第19回 日本家族看護学会に参加して

奈良県立奈良病院 小山 弘恵

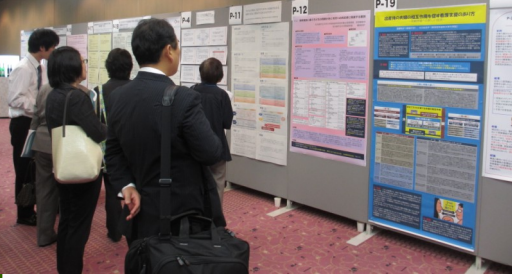
平成24年9月8日・9日に東京で開催された第19回日本家族看護学会で口演発表をおこないました。

私は、急性期病棟の外科系3科混合病棟で勤務しています。終末期の患者さんも含め、日々の看護を行う中で、家族看護の重要性は認識しながらも、実践することの難しさを感じていました。

今回、患者家族（遺族）にインタビューを行った結果を発表しました。学会での発表は初めてであり、とても緊張しましたが、発表後には座長から「現場からの貴重な声」と言っていただきました。会場からの質疑もあり、貴い経験をしました。

また、退院支援やがん終末期の家族支援など興味深い内容も多く、有意義な2日間でした。家族看護の知識を深め、家族の力を引き出せることにより、患者さんにより良い関わりができることを目指して、日々看護に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

ポスター発表会場



それぞれ個々に関心も好みも違いますが、私も誰かの心に引っかかるような発表ができたらいいなと思いました。

私にとって「家族」とは、幼い頃からずっと自分の中の1つのテーマだったような気がします。看護という自分の職業の中に、幼い頃からのテーマをこれから先もずっと探求していける場をみつけた時の興奮は今でも忘れません。来年は私の地元、そして母校での開催ということで、今からとても楽しみです！

日本家族看護学会第19回学術集会に参加して 静岡県立大学短期大学部 影山葉子

残暑厳しい中、今年も恒例の学術集会に参加しました。今年は記念すべき、初めての発表の年となりました。今回の発表では、研究の途中経過を発表したのですが、「今年は発表するぞ！」と心に固く誓ってから発表までの一連の作業は、それなりに大変なものです。けれども、自分がやってきたことの整理ができます。自分が研究してきたことを他者に晒すことは、それなりに勇気のいることですし、ワクワクもします。私自身、今まで様々な学会発表を聞き、いくつか印象に残っている発表があります。発表内容や発表スタイル、

家族CNSによるセッション



日本家族看護学会

【事務局】

〒929-1210 石川県かほく市学園
台1丁目1番地
石川県立看護大学内
日本家族看護学会事務局

TEL・FAX：076-281-8374

<e-mail>

family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp

ホームページもご覧ください。

<http://square.umin.ac.jp/jarfn/>

日本家族看護学会

<広報・渉外担当>

泊祐子、浅野みどり、
甘佐京子、山本真実、
古澤亜矢子

第19回日本家族看護学会学術集会の事務局を担当して

東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野 池田真理

今年の秋は、天候不順で雨などが心配されましたが、穏やかな天候の中、9月8・9日の2日間を通じて830名余りの方にご参加いただき、第19回日本家族看護学会学術集会が開催されました。

私は本学術集会の事務局として開催の1年半ほど前から学会準備に関わらせていただきました。大会長が熱い思いで決めたテーマ「家族とレジリエンス」に沿ったプログラムを決めていく段階、一般演題の口演や示説が、研究者と実践家にとって活発な意見交換の場となるようにするための工夫など、学術集会が形作られていく全過程に関わることは本当に感動的でした。学術集会は企画から運営にいたるまで、多くの方々にご協力いただきました。その舞台配置、シナリオにそって、当日にスムーズに流れるようにするのが事務局の役目であり、その大役には緊張いたしました。しかし、学会運営にご協力いただいた多くの方々から、優しいお声かけがあったり、「参加した方には楽しんでいただこう！」という気持ちでスタッフ側も一致団結したことにより、学術集会がスタートすると、終わってしまうのが惜しいような気持ちを持ちました。

シンポジウムや講演に登壇いただいた先生方は、学会での交流を楽しもうという意気込みをお持ちの方が多く、研究に対する姿勢はもとより、それを言葉にして語り、ディスカッションをする楽しさを実感させてくださいました。

こうして運営委員、実行委員また、多くの学生ボランティア、皆さまのご協力を得て、大盛況の内に学術集会は閉会し、充実した二日間でした。誠にありがとうございました。

<編集後記>はやいもので、このWeb Newsも数えるところ7号となりました。少しでも、会員のみならず学会や家族看護CNSの活動についてお伝えできればと思い編集しております。特に学会の後に発行するNewsでは、学会に参加できなかった方がその雰囲気にも少し触れることができるように、また参加された皆様がい出の余韻？に浸れるように、写真等も許される範囲で掲載させていただいています。学会参加記では、学会参加(発表)者として参加された方、また同じ参加でも学会の運営を裏方として支えてくださったスタッフの方に、それぞれ記事をお願いしています。それぞれの立場での思いや、感想が記載されており、読み比べてみるとより興味深いものとなるはず。秋の夜長にゆっくりご覧ください。(by amasa)